

令和2年8月1日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## ハスモンヨトウの発生に注意が必要です

県内各地におけるハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、6月中旬以降増加がみられ、6月下旬～7月上旬には地域によって急増し、平年よりも非常に多い誘殺が確認されています（図1）。

本虫は高温乾燥で発生が助長されますが、1ヶ月予報（7月23日・福岡管区気象台発表）によると、7月25日以降の気象は気温が低い確率が40%、降雨量は平年並および多い確率いずれも40%との予報となっています。

気象は増殖に好適な条件ではありませんが、6月下旬～7月上旬の誘殺状況から、誘殺ピーク後世代の次の世代による被害が懸念されます。このため、この世代が現れると予想される8月上～中旬の発生に注意が必要です。

【作物】 大豆、野菜類（イチゴ、サトイモ、アブラナ科野菜など）  
【病害虫】 ハスモンヨトウ

### 防除上の注意事項

- ア 本虫は始め孵化した幼虫が固まって葉を食害し、その後成長とともに分散します。本虫は分散すると薬剤がかかりにくく、老齢になるに従って薬剤の効果が低下するので、早期防除に努めてください。
- イ 大豆においては、圃場をこまめに見回り、白変葉等の発生に注意し、発生初期の防除に努めてください。防除目安として10aあたり50枚の白変葉が確認されたら、即時防除が必要です。
- ウ 野菜類では、育苗期や定植直後に発生すると被害が大きいため、こまめに見回り、発生初期の防除に努めてください。
- エ 施設栽培では、開口部に防虫ネットを張り、成虫の侵入や産卵を防止してください。
- 薬剤散布については、農薬使用基準（希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。



図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況

